

記念展や講演で顕彰

日本洋画の先駆者の一人に数えられる郷土の画家・山本芳翠。日本洋画の発展に情熱を燃やし、その功績から「日本洋画の父」とも言われています。芳翠が現在の明智町野志で生誕してから、ことしで160年を迎えます。市では、山本芳翠顕彰会とともに、芳翠の功績や作品を紹介し、わがまちが誇る先人として称える記念事業に取り組みます。

問い合わせ 教育委員会文化課 43 2112

明智町野志の出身

山本芳翠は1850(嘉永3)年8月12日に、現在の明智町野志で、農家の長男として生まれました。幼いころから絵が好きで、15歳のとき京都へ出て、中国の南宋画に由来する南画を習い始めます。

1868(明治元年)年、横浜で初めて西洋画を目にし、その衝撃からすぐに西洋画への転向を決意。洋風画家・五姓田芳柳(ごせだほうりゅう)入門し、「芳翠」の号を与えられ、洋画家・山本芳翠として出発しました。その後、山県有朋率いる北海道視察の随行者、第1回勸業博覧会での受賞など、有力な洋画家の一人として成長します。



山本芳翠。「山本芳翠の世界展図録」朝日新聞名古屋本社発行(1993年)から転写。

技術はフランスで

1878(明治11)年、パリ万国博覧会に随行者し、その閉会後もパリに滞在し続けました。本格的に洋画を学びながら、劇場の背景画や壁画、ルーブル美術館での名画の模写にも励みます。300点もの作品からなる個展も開き、フランス美術界でもその名を知られるようになります。

当時の日本洋画界では、最も早い時期のフランス滞在で、その期間は10年に及びました。滞在中の作品の多くは、芳翠の帰国前に作品を乗せた艦が行方不明となり、残念ながら失われてしまいました。

報道画家としても

1887(明治20)年、帰国した芳翠は作品制作を続けながら、画塾や洋画団体を設立し、後進の育成、日本美術界の発展に力を尽くします。また、報道画家として、会津磐梯山の噴火や、日清・日露戦争での各地の様子を描いています。そのほか、教科書への挿絵や舞台背景画の制作など、その才能は多彩を極めます。

1906(明治39)年、芳翠は56歳で他界。日本洋画の発展に情熱を捧げた芳翠は、その最期も作品の制作中のことでした。



浦島図 = 1893(明治26) ~ 1895(明治28)年ころ。第7回明治美術会に出品された迫力ある大作。浦島太郎という日本的テーマを洋風表現した芳翠の作例の一つ。(県美術館所蔵)



灯を持つ乙女 = 1892(明治25)年ころ。芳翠存命中から生家にあり、地元になじみの深い作品。(県美術館寄託)



【日本洋画の父・芳翠の功績を伝えたい】

山本芳翠顕彰会はこれまで、芳翠の作品を学び、郷土の偉大な先人の功績を、世に広めようと活動してきました。昨年10月には生家に看板を設置し、多くの方にご覧いただいています。生誕160年を迎えるにあたり、市と力を合わせ顕彰事業に取り組んでいます。皆さんに「芳翠の功績を知ってもらいたい」「芳翠を郷土の自慢としていただきたい」と意気込んでいます。作品を目にした時の、あの迫り来る感動。この記念の年に、ぜひ作品を鑑賞いただき、芳翠という人物をご堪能ください。

問い合わせ 山本芳翠顕彰会事務局(日本大正村役場内) ☎54-3944

会長を務める成瀬郁夫氏(大正ロマン館で)

昨年10月、生家に看板を設置(明智町野志)



【先人顕彰事業】

山本芳翠生誕160年記念事業

芳翠の功績や作品を学び、わがまちが誇る郷土の先人として顕彰します。皆さんの参加を、お待ちしております。

講演会(第1弾)「山本芳翠とその時代、そして今」

「浦島図」などを所蔵する県美術館。そこで芳翠の研究に取り組み古川館長が、分かりやすく芳翠とその作品、時代背景などを紹介します。

とき 8月1日(日)午後2時

ところ 恵那文化センター

講師 県美術館館長 古川秀昭氏

講演会(第2弾)「芳翠の知られざる一面を探る」
同郷の先人、下田歌子とのつながりを交え、活人画などの多才な一面を紹介します。
とき 平成23年1月10日
ところ 明智文化センター
と山本芳翠の生家周辺

講師 実践女子大学図書館司書 大井三代子氏
企画展「生誕160年記念、郷土の画家・山本芳翠」
県美術館所蔵の「浦島図」や市所蔵の作品などを展示。
とき 平成23年1月20日(木) 2月27日(日)

ところ 中道広重美術館
観覧料 無料
山本芳翠・水墨画展
父の死後、故郷の野志に長期滞在したとき、多くの水墨画を制作。その作品を展示。
とき 平成23年1月20日(木) 2月6日(日)

ところ 大正ロマン館
そのほかの催し
生誕地における資料調査
市美術館に芳翠大賞(仮称)を設置

子ども展で作品募集と特設コーナーの設置

資料調査報告会